

夢描く場所

千葉市立高等特別支援学校

学校だより 第6号

令和3年10月19日

学校も自分自身もリニューアルに向けて！

緊急事態宣言が解除されましたが、次は校庭の改修工事が本格スタートしました。また少し辛抱は続きますが、年明け1月から使えるように、工事関係者の方々が急ピッチで作業を進めてくださっています。そんな中、10月7日には前期終業式を、13日には後期始業式の区切りを迎えました。前期を振り返り、後期に向けて生徒に話をした内容をお知らせいたします。

＜前期終業式＞『4月、入学や進級したころを思い出してみましょう。新しい友達や先生と出会い、学級づくりが始まりました。教室の黒板の上に掲示してある学級目標は覚えていますか？こんなクラスにしたいという思いを込めて、みんなで相談しながら決めたことと思います。四字熟語で表したクラスもあれば、学級名のアルファベットを取り入れたクラス。担任の先生の名前でアレンジしたクラス。合言葉として言いやすいフレーズにしたクラス。どのクラスも様々な思いで工夫して考えられており素敵です。学級目標が今の状況にマッチしているといくつかを紹介します。「雲外蒼天」（うんがいそうてん）…困難を努力して乗り越えることで、その先には青い空がまっているという意味です。将棋の藤井聡太さんが九段昇段を果たしたときに扇子に書いたのがこの言葉のようです。「万里一空」（ばんりいっくう）…剣豪宮本武蔵が長年の修行で到達した精神的境地で「どんなにはるか遠くまで行っても空は一つしかない。」動揺せずに冷静でいることが望ましいという心持を説いたもので、現在では「目的目標すべきことを見失わずに励む、頑張る続ける」という意味で使われているようです。コロナ禍で我慢に我慢を重ね、すっきりしない雲がかかった状況から、緊急事態宣言も解除され少しずつ晴れ間がのぞいてきているような感じです。この言葉のように青い空が広がることを願っています。また、そんな中でも目標を見失わずに頑張っていかなければいけないと改めて感じています。是非、今一度、学級目標に込められた意味や思いを再確認してみてください。』

＜後期始業式＞『学級目標を振り返り「自分はこんな行動をしよう」「私はこんな取り組みにチャレンジしたい」というのは見つかりましたでしょうか？小学校から中学校、中学校から高校へと学校が変わるとき、1年生から2年生、2年生から3年生と学年が変わるとき、1年の中でも前期から後期に変わるとき、節目、区切りのときに、気持ちを新たに頑張ることを見つけていくことが大切かと思います。学級目標のように四字熟語でいうと「心機一転」「気分一新」。英語にすれば「リスタート」（再出発）や「リボーン」（生まれ変わる）。よく見聞きする言葉にすれば「ニュー・○○」「新・○○」になるのではと思います。学校もニュー・高等特支になるように、気分一新して生まれ変わります。皆さんも新しい自分になれるように気持ちを切り替えスタートしていきましょう。ただ、無理に自分を変えるというのではなく、うまくいっていたことはそのまま継続できるように、今一つだったことには変化を起こせるような目標を立てていきましょう。』

生徒はメモを取りながら聞いてくれていました。メモと話の内容が合っているか確認したり、後期頑張ることの確認をしたりということを、自分自身、またはご家族で試みていただければと思います。



校長 三宅 健二郎